

「国保税下げよ」と樋口議員が要求

12日からの厚生常任委員会で樋口議員は、福祉や医療に係る問題で積極的に発言しました。昨年度決算で滞納額が10億円を超えている国民健康保険税については、市民の命と健康を守る立場から引き下げを求めました。以下は国保税についての質疑の概要です。

【質問】平成18年度収納率の直近の状況と最終の見込み額はどうなっているか、明らかにしてほしい。

【答弁】手元に詳細な資料はないが、現年度分は、平成17年度より若干下がっている。ただし、滞納分については若干上がっている。

【質問】納入促進員の活動には限界がある。滞納の理由の中で「生活困窮」が半分以上になっている状況や、税体系も変わったこともあり、課長が言ったように収入が増えていないのに負担が増えていくのが現実だ。国保税を下げてもらいたい。

国保税引き下げについては、市の自助努力だけでは限界がある。国保税の割合を増やすよう声を出してもらいたい。また、社会保障という位置づけで、一般会計からの繰り入れも視野に入れ、国保税を下げるような手立てをお願いしたい。

【答弁】「国保税を下げる」ということについては、この段階では答えられない。今後の医療給付費の額に左右されるところがあるが、平成20年度からは特定健診が義務付

けられたこともあり、これに力を入れていきたいと考えている。単に、収入が少ない、医療費給付費がかかるからといって税率を下げるのは現段階では難しいと考えている。

国の負担率については、毎年、市長会、国保連合会などで要望書をだしており、当市も同様に活動をしている。平成20年度以降の税率については、「段階的な」ことも考えているが、将来的にどのような状況になるか分からない状況なので、今年度中に検討が必要と考えている。



並行在来線、「県の責任」改めて言及



市長の回答を受ける党市議と上野こうえつ事務局長

日本共産党上越地区委員会は年末に新年度予算などについて木浦市長に要請を行ってきましたが、このほど文書で回答がありました。

この中で、注目されている並行在来線問題については、「県と沿線自治体による確認書のとおり、県が沿線自治体の協力を得て責任をもって存続を図り、市の財政負担は財政状況の許す範囲にとどめることとなって」といると「県の責任」に言及しています。

ほくほく線の高田駅までの乗り入れ、将来的には新幹線駅、あるいは妙高高原駅までの乗り入れを図ることに關しては、「ほくほく線及び信越本線、北陸本線といった鉄道網は、市民の日常生活や経済活動にとって重要な役割を果たしている。市としては、利用者の利便性の向上とほくほく線の利用促進を図るため、ご要望の『ほくほく線の延伸』を、機会あるたびにJRや北越急行(株)へ申し入れてきたところであり、今後も引き続き、申し入れを行ってまいります」と回答しています。

また、「新幹線開業後、新潟方面への快速や特急などの増発でアクセスを容易にするよう働きかけること」を求めたことについては、「新幹線開業後の新潟方面への快速や特急などの運行形態は、JR東日本などの運行主体が開業前に決定するもの」としながらも、「当市が交通の結節点としての機能強化を図るためには、新幹線との接続を含め、在来線の活用が重要な課題。JR東日本の基幹駅として利便性が向上するよう沿線の自治体とともに関係団体に対し、継続的に働きかけていく」と回答しました。

『春よ来い』

11週連続ベストテン入り

橋爪議員の著作『春よ来い』が好評です。新潟日報紙の「売れている本」では11週連続ベストテンに入っています。

「上野こうえつの活動日記」が注目されています。アドレスは <http://www.k-ueno.jp/modules/news/> です。

日本共産党上越地区委員会ニュース

86 2007年3月25日

連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
 樋口良子 544-6802 (中門前3)
 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
 事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)